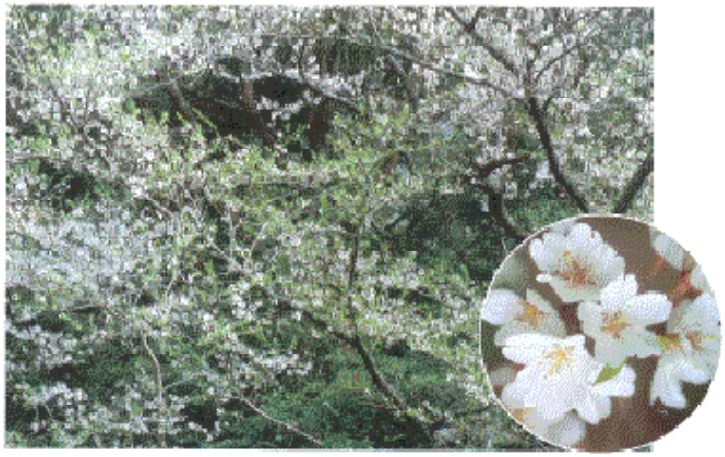
ヒガンザクラ自生南限地

【所　在　地】姶良市吉松町川添
【種　　別】国指定天然記念物
【指定年月日】大正 12 年３月７日



ヒガンザクラの自生南限地として指定されたが，正しくはエドヒガン（別名アズマヒガン，ウバヒガン）で，本来のヒガンザクラとは全く別種である。しかし，本州から四国，九州に分布するエドヒガンの自生南限地であることに変わりはない。

エドヒガンは幹の高さ約 10m ほどで，樹皮は黒味がかった肌色をしており，縦に裂ける性質がある。３月下旬に葉に先立って淡いピンク色の花を咲かせ，花の直径は 2.5 ～３cm ほどで，２～５個の花を散形状につける。また花弁の下の花茎の部分が急に丸くふくれているという特徴がある。「ヒガン」とは，春の彼岸の頃に花が咲くからである。

指定された個体は，霧島山系栗野岳の中腹（海抜約 450m），面積約 60ha の国有林内に散在しており，直径 50cm 前後，樹高約 10 ～ 15m のものが 38 本確認されている。一時期，自然災害等による枯死が心配されたが，近年は幼木の生育も見られるようになってきた。